

文章題のめあてとまとめ 解決の道筋

— 2年「ふえたりへったり」（啓林館）について —

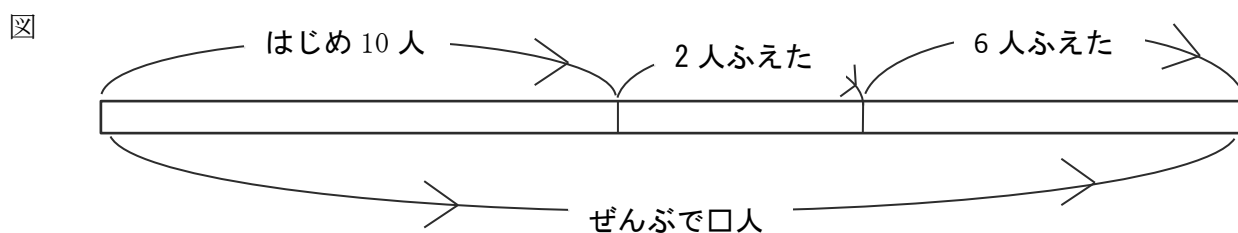
(注：ページ番号は、平成27年度版啓林館のものです。問題文は著作権の関係で掲載できません。お手数ですが、教科書を参照してください。)

上 p. 108① $a+b+c=$ の問題 (加減の結合法則の基礎経験)

1年 p. 43②の $a+b=$ の問題と本時の $a+b+c=$ の問題とを比べることで、次のような一般化されためあてをつかむ。

めあて

はじめの数から2かいふえたときの、ぜんぶの数のもとめ方を考えよう。



式 $\cdot 10 + 2 = 12$ $12 + 6 = 18$ 答え 18人

$\cdot 2 + 6 = 8$ $10 + 8 = 18$ 答え 18人

まとめ

2かいふえたときのぜんぶの数を もとめるには、じゅんに たしたり、ふえた数を まとめて たしたりする。

★ p. 108 を順々に足すページ， p. 109 を まとめて足すページとしたりせず，一方の解き方ができた児童に他の解き方を考えるように促したり，学級全体で話し合う場面で，他の解き方に触れたりして，しだいに結合法則の基礎経験が主体的にもてるようにし，それぞれの解き方を説明する場面では，対話的な学びが進むように理解を補ったり，多様に考えることを称揚したりすることが望ましい。

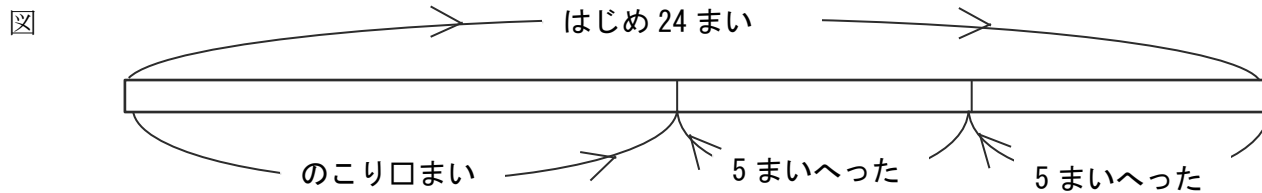
次単元では，どちらの解き方でも答えが同じになることに気付くようにして，深い学びに至るようにしたい。

上 p. 109② **a-b-c=**の問題

p. 108①の **a+b+c=**の問題と本時の **a-b-c=**の問題とを比べることで、次のような一般化されためあてをつかむ。

めあて

はじめの数から2かいへったときの、のこりの数のもとめ方を考えよう。



式 $\cdot 24 - 5 = 19 \quad 19 - 5 = 14 \quad \text{答え } 14 \text{人}$

$\cdot 5 + 5 = 10 \quad 24 - 10 = 14 \quad \text{答え } 14 \text{人}$

まとめ

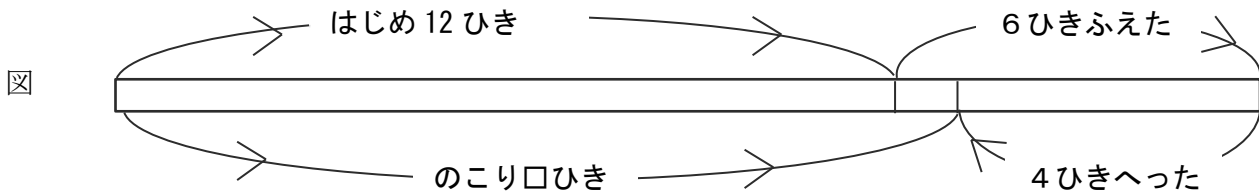
はじめの数から2かいへったときの、のこりの数をもとめるには、じゅんにひいたり、へった数をまとめてひいたりする。

上 p. 110③ **a+b-c=**の問題

p. 108①の **a+b+c=**の問題及び p. 109② **a-b-c=**の問題と、本時の **a+b-c=**の問題を比べることで、次のような一般化されためあてをつかむ。

めあて

はじめの数から ふえたり へったりしたときの、のこりの数の もとめ方を考えよう。



式

- $12 + 6 = 18$ $18 - 4 = 14$ 答え 14 ひき
- $6 - 4 = 2$ $12 + 2 = 14$ 答え 14 ひき

まとめ

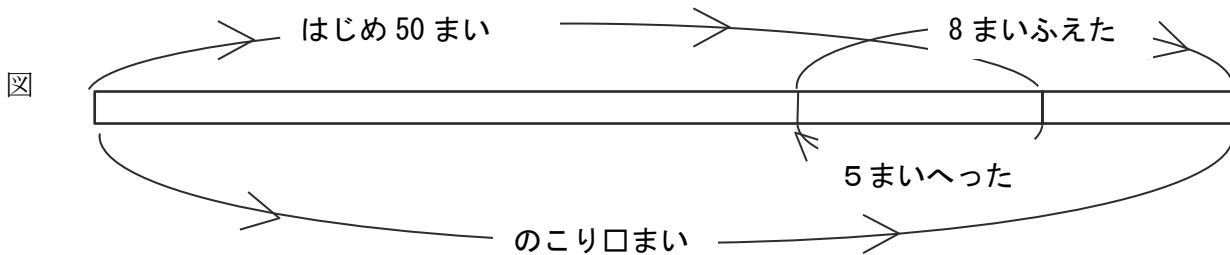
はじめの数から ふえたり へったりしたときの、のこりの数を もとめるには、じゅんに けいさんしたり、ふえた数へった数をまとめてから けいさんしたり する。

上 p. 110④ **a-b+c=**の問題

p. 110③の **a+b-c=**の問題と本時の **a-b+c=**の問題を比べることで、次のような一般化されためあてをつかむ。

めあて

はじめの数から へったり ふえたりしたときの、のこりの数の もとめ方を考えよう。



式

- $50 - 5 = 45$ $45 + 8 = 53$ 答え 53まい
- $8 - 5 = 3$ $50 + 3 = 53$ 答え 53まい

まとめ

はじめの数から へったり ふえたりしたときの、のこりの数を もとめるには、じゅんに けいさんしたり、へった数ふえた数をまとめてから けいさんしたりする。